

## 早稲田大学 教育学部 世界史 講評

### 〔総合分析〕

出題形式	マーク・記述併用
試験時間	60分
特徴・その他	出題形式・分量（記述式10問・選択問題40問の計50問）とも去年と同じ。記述式は全問が基本的内容。選択問題のうち正誤判定問題は昨年に比べやや難化した。

### 〔大問別講評〕

番号	出題内容	コメント	難易度
1	近現代の主要会戦	誤っている部分が見えやすいので正確な知識さえあれば時間も手間もかからないだろう。ただ、(8)のミッドウェー海戦と(10)の日本海海戦は日本史的内容で世界史としては異色。(8) - cの神風特別攻撃隊(いわゆる「体当たり」攻撃)は1944年10月にフィリピンに來襲した米艦隊に対して実施されたのが最初。(10) - dは「賠償金」が誤り。(9) - cは「ロンドンに凱旋」が誤り。彼は戦死している。	標準
2	14～15世紀の欧州	記述問題は易しいが、正誤判定と語群選択は難しいものが目立つ。(4) - bの「『カンタベリ物語』を俗語」の部分を選びとした受験生も多かったのではないかと推察される。この本は中英語(ミドル=イングリッシュ)といわれる中世の英語で記されている。(9) - aのバレンシアを選択するのは厳しい。	一部難
3	古代インド史・朝鮮王国と日本の関係史	設問A(1) - dのクマラグプタ1世は消去法で対処可能。設問B - ウの「阿育王」は「アショーカ」と書かずわざと漢字表記しているところがいやらしい。の入竺僧も、ウの法顕を選んでしまった人も多かったはず。ナーランダラーというと玄奘と義浄はよく言うが、実は法顕も立ち寄っている。正解の義浄の著作の『南海寄帰内法伝』なら易しいが『大唐西域求法高僧伝』となると難しい。の朝鮮の高宗の日本訪問は消去法で正解にたどりつくしかない。設問C - 空欄口の「京城」も細かい。	難
4	ベトナム史	ベトナムからのまとまった問題は前日の人間科学部にも見られた。併願した者にとってはありがたいプレゼントになったはずである。内容は基本的なものばかりである。	標準

## 〔総合コメント〕

記述式問題は基礎的内容なのでしっかり得点したい。ただ、カタカナで書かれる場合も多い事項を「漢字」でと指定されるケースが増えているので、必ず漢字で書けるよう心がけたい。例年のことながら、正誤判定のポイントに難しいものが目立つ。「誤っているもの」を1つ選ぶ場合、4択だと3つの文は正しいわけだが、その正しい内容に難解な内容が目立つ。まずは消去法でなんとか対処し、あとはあまり疑わずに間違っていそうなものを選んだ方がいい。どうしても難しい設問に目をとられてしまいがちだが、大体8割は標準的レベルである。8割をコンスタントに取れるよう学習するのが先決で、世界史がよほど好きか、他の科目とのバランスで世界史に時間と労力を割ける場合にのみ、残り2割の対策をとるべきである。大問の一つが今年にはモンゴル史だった。昨年このコーナーで「構成が変わらないもの」とすると、西アジア 西アジア モンゴル(北アジア)ときたので来年は東南アジアかラテン＝アメリカ、またはアフリカか。」と推測したが、案の定ベトナムからまとまった出題があった。この順で行くと、来年は中国しかありえないがどうだろうか。